

議長(山口 一成君) 続いて5番、中村充男君。

5番(中村 充男君) こちらから行政側を見させていただきますと、町長、副町長以外の方はほとんど場所が変更になったり、新しくおみえになった方ございまして、ただ私には、この新鮮味が何も伝わってこないような気がいたします。なぜかという、次の質問でわかってくるかと思いますが、まず3つの点について、役場周辺の駐車場について、町長にお伺いをしたい。2つ目に、長深の地区に予定をいたしておりますイオンの出店の有無について、副町長にお伺いをしたい。そして最後に教育長に、当町における教育の指針としての課題は何かということをお尋ねをしたいと思います。

まず町長、役場におみえになる方、そして体育館、商工会館、文化会館、そして、できました公園におみえになる方々が、駐車場で非常に不便を感じていらっしゃる方が多いと私は承っております。特に天候のいい日にイベントがあると、公園の方に遊びにいらしたお客様が役場の周辺にとめられる。

前日も申しましたけれども、文化会館で財津一夫のショーがありました時に、半分ぐらいしか入ってないので券が売れてないのかと、こう思いましたところ、休憩の時にどっと後ろまでいらっちゃった。何でこんなことになったのかなと、こう思いますと、車の置くところがなくて時間に間に合わないということで、公演に遅れていらっしゃる方が多い。そして、あちこち道路にも車がはみ出しておる。

その時にずっと役場周辺を車で回って見てみますと、結構空きスペースがある。役場の西北にあります、恐らく職員の方の駐車場でございますが、先般そういったときに10台余ってありました。そして、役場の前には「東員町」と書いた軽トラックとか軽ワゴン車がとまっております、あの車は一体役場の北側の一番メインなところに、いつもよく見かけます。

私はショッピングセンターの企画をしておりました時に、土日の方は、員弁パルでございますが、役場の駐車場を職員はおかりするようというので、遠くから歩いてまいりました。なぜかと申しますと、買い物に来ていただく方を優先するためございまして、歩いてくると2,000円の売り上げ、車で来ると7,000円の売り上げがあると、こういうことで説得をいたしまして、従業員に極力土曜日・日曜日はいなべ庁舎の方に置かせていただくようにと、こういう通達をしましてやってまいりました。

それが、この役場におきましては、天候とかイベントとか何かの行事関係なく、自分たちの思ったところにとめていらっしゃるような気がしてならないのです。そうしたご配慮をでき

るかどうか。そして、町長は職員の方に車の駐車をどのようにご指導なさっておられるか、お伺いをしたいと思います。

議長(山口 一成君) 佐藤均町長。

町長(佐藤 均君) お答えをさせていただきます。

通告いただいた方向性も少し違うみたいな感じがしているのですが、一応私どもの駐車場についての、まずお答えをさせていただきます。

役場庁舎、総合文化センター周辺の駐車場につきましては、過去にも何度かご質問をいただいておりますが、駐車場不足を解消するために、昨年度は、総合文化センターの駐車場として48台分、中部公園に56台分を増設して、駐車スペースを確保させていただきました。現在の駐車可能台数は、役場周辺が214台、総合文化センターが192台、中部公園が101台でありまして、合計で507台分を確保いたしております。そのうち、職員が使用させていただいております台数といたしましては、125台分くらいでございます。

しかし、会議やイベントが開催されるたびに、住民の皆様には大変ご不便をおかけしておりますことは十分承知をしておりますので、限られた敷地面積と予算ではありますけど、今後も駐車場整備につきまして、住民の皆様が利用しやすいよう精一杯努めてまいりますので、ご理解賜りますようお願いを申し上げます。

そこで、職員の駐車の関係でございますけど、職員の駐車の場所は決定をさせていただいて、大体が自分の場所へ駐車を、平常のときにはさせていただいておりますので、どうぞご理解をいただきたいと思っております。

議長(山口 一成君) 中村充男君。

5番(中村 充男君) 先般、職員のある方より、ここはだれとだれの場所やから、ここへ置かんといしてほしいと、こう言われた人がおまして、納得がいかないの、私はその担当部署の部長、課長にお越しいたいて、現場で話し合いまして、一応その件については一件落ち着いたわけでございます。落ち着いたというのは、物理的に落ち着いたことでありまして、心の問題が残っております。何も指定がないのに、ここはだれとだれの駐車場だからということは、これは文化会館でございますが、事情があって、皆さん、入り口に近いところへとめたいわけでございます。特に西北の駐車場は、真ん中の10台はいつも満杯にとまっておりますが、毎日、私、写真をとっておりますけれども、身障者のマークと何とか、皆さんそういうような方のマークがようけつきまして、ほとんどとまっていないのです。1台か2台。それでもじっと見ておりますと、やっぱり東員町の皆さんはまじめな方が多いのか、

その場所にとめられない方が多い。たまにとめても、……………私は身障者だというふりをしながら、10歩ぐらい歩いていかれる方もいらっしゃいます。これは気が引けるからだろうと私は思っております。

しかし、納得いかないというのは、職員の皆さんからすれば、ひょっとしたら、ここは我々職員が管理しているのや、おまえらに使わせとったるんやぞ、こういう心が少しでもあるんじゃないかということに私は疑念を抱いております。一般の住民や町民の皆さん方が図書館にいらっしゃる、文化会館にいらっしゃる、体育館にいらっしゃる。こういう方々が快適にスムーズにとめて、気持ちよくご利用なされるために、職員の皆さんはどのようにしたらいいかということを考えていただかなければならない。この心の問題が、我々が管理をしとったる、おまえらに使わせとったるというような気持ちが、心の奥底に少しでもあると、ここはわたしのとこやで、向こうへとめてください、こういう言葉になってくると私は思っております。

ですから、この文化会館の西北の駐車場の身障者用のところ、もう少し利用できないか。そして、文化会館の入り口より東、いまだかつて、あそこでイベントをやっているところを見たことがない。20年間の前からずっと聞いてみますと、一度もあそこの野外のステージで何かパフォーマンスをやっている人がいるか、だれもいない。

ところが先般、樹木の剪定のためにトラックが乗り上げておりましたね。今、こちらに大きな公園ができました。昔は公園がなかったものですから、あその樹木は非常に緑がよかったわけでございますが、今となって、あれほど大きくなって、樹木の剪定にまた費用がかかる。あそこをもう少し整備して、イベントのあるときだけは、あそこの方に車が駐車できるようになれば、相当、渋滞とか遅れが解除できるものと確信をいたしておりますが、町長、いかがでしょうか。

議長(山口 一成君) 佐藤均町長。

町長(佐藤 均君) お答えをさせていただきます。

文化センターの玄関の東というんですか、その部分につきまして、野外ステージと水が流れておる、せせらぎがあるんですけど、その部分を駐車場にかえていく、このようなご議論は以前から出ております。私どもとしても、いろいろ研究もしながらさせていただいておるんですけど、実はあそこ、交差点が北側でございますので、交差点の余りにも近いところから車を入れるということは、やはり危険も伴うということで、その辺をどうしたらいいかということで、今、研究をさせていただいております。確かに余り利用されておりませんので、駐車場、二方向というようなことも、東の中間ぐらいというんですかね、東の道路の北南の真ん中辺ぐらいから車を入れてというようなことも考えておりますし、北側からは少し

入りにくいのかなという考え方もしておりますので、その辺ももう少し詰めさせていただいて、駐車場にということで研究をさせていただきます。

ただ、あそこはせせらぎもつくって、ポンプというんですか、井戸というんですか、そこらもございますし、いろいろのこともございますので、十分研究はさせていただいて、できることなら少しでも駐車場スペースをつくっていきたい、そんな思いであります。

ただ、文化センターの西の通用口というんですか、その付近の駐車につきましては、どうしても公用車の車庫もございます。そこで回転したり、いろいろすると、少しスペースも欲しいということもあろうかと思えますし、以前からあそこは一般の皆さんの駐車スペースには使っておりません。非常に狭いところでございますので、その辺も今後少し研究もさせていただきますけど、西から順番に車を詰めますと、公用車も回転がきかない、いつもバックして、というようなことになろうかと思えますので、その辺も研究もさせていただきます。決して職員が自分たちの専用というような考え方は、私は毛頭、職員はないと思えますので、その辺はひとつご理解をよろしくお願いを申し上げます。

議長(山口 一成君) 中村充男君。

5番(中村 充男君) 先般その場所に、ここへはとめたらいかんと言いながら、今までの空き地スペースに、駐車禁止の三角コーンを立てられた方がいらっしゃいます。それは規制中心の権力志向型の組織だと、私はそう思っております。もう少しサービス志向の行政型に変えていくことはできないものか。現実是非常になまやさしいものではないと思えますけれども、時代や環境の変化は足元でどんどんと急速に進行中ございまして、そういったことが町民の皆さんによく見えるように、よくわかるように、大きく変わってほしい。そしてまた、変わらなければなりませんし、町長の政治的強固な指導力を発揮していただきまして、町民の皆さんが求めていらっしゃるサービスを提供していただきたい、かように思わせていただきます。

もうこれは町民や住民の方々へのサービスを視点に、心の中、内在化した問題でございますので、東員町の職員の皆さん全員に、また、組織の末端に至るまで、こうした町民の皆さんが何を求めていらっしゃるか、何をしたらいいかということを、ひとつ心から研究していただいて、ご了解をいただきたいと思えます。

続きまして、副町長に、長深地区に出店予定のイオンタウンで、これでございますが、一体どうなるのか。住民の方も地権者も心配していらっしゃいます。いかがでしょうか。

議長(山口 一成君) 安藤修平副町長。

副町長(安藤 修平君) 長深地区に出店予定のイオンショッピングセンターにつきまして、ご質問にお答えをいたします。

このイオンショッピングセンターにつきましては、地権者の皆様をはじめとする関係各位、関係機関への幾度もの説明、協議を重ねまして、出店に対するご理解をいただき、平成19年11月29日に開発行為の許可がなされております。

しかし、現在に至っても工事着手がなされておられません。このことにつきましては、町といたしましても、これまでに早急な着手をされるよう、イオンリテール株式会社をお願いをしているところでございます。しかし、一昨年からの建築資材等の異常な高騰により、採算に合う建築コストとの著しい差異が生じており、また、昨今の不透明な経済情勢の影響をイオンも例外なく受けており、新規事業計画については慎重に進めざるを得ないということ聞いております。

しかし、建築コストは徐々に下がりつつあり、コスト削減や施工方法も検討しておりますので、工事着手につきましては、いましばらくのご猶予をいただきたいと思いますということも言っております。

町といたしましても、地権者の皆様には大変なご心配とご迷惑をおかけいたしておりますが、今後もイオンリテール株式会社に対しまして、一日も早い工事着手をお願いしてまいりたいと考えておりますので、ご理解を賜りますようお願いを申し上げます。

議長(山口 一成君) 中村充男君。

5番(中村 充男君) ありがとうございます。

ただ、こちらからずっと見ておまして、企業立地特命監が定年退職されましたけども、その企業立地特命監というところがないのですね。だからイオンは来ないでいいわ、しょうがないなとあきらめたのかなと、こういうふうに、私とらせていただいたわけでございます。

先ほどの藤田議員が、組織替えについて、町長と問答しておられるのをじっと聞いておまして、ロンドンとパリでしゃべっているような感じでございまして、どうも歯車が合っていない。私もそう思うわけでございますけれども、企業をどうしても立地しないといかんと、こういう立場のもとに企業立地特命監というポストがあるのかと思ったら、まだ何も決まっていけないのに、そのポストがなくなって、今度は新しく教育の方に事務局長というポストができた。後で教育長の質問のときに、私はこういうことをしたいから、こういうポストをつくる、これならわかるんですが、この人とこの人、行き場がないので、こういうふうな、こんなポストをつくらないといかん。これでは財政の再建とか、いろんなことを考えていらっしゃるのに、

何か逆行しているのではないか。こういうことをしたいから、こういうポストをする。野球でも、右のシフトならこっちへ行け、左へ行け、右へ行けという監督の指示のもと、そっちの守りを固めるわけでございまして、イオンが来るか来ないかわからん。

この間、ある方が、もう事務所ができた、こう言われるのですが、よく毎日通っておるところですが、気がつきませんで、また見に行きましたら、やっぱり事務所らしきものが搬入されておりまして。その地主さんに聞いてみますと、できるやらできんやらわからんので、月々家賃をもらうより、もうまとめてくれと言って金をもらったでよかったと、こういうふうにおっしゃってみえるんです。

そして、そのイオンでございませぬけども、この11月が期限でございませぬ。ああいう優良農地を農振を外し農地転用してしまった。そして役場の職員までが印鑑を集めにいたり、企業誘致やということで力を入れていたけれども、これができなかった。例えばあと6カ月です。できなかった場合はどうするのか。できれば越したことがないのですが、その辺はどのようにお考えか、副町長にお伺いをしたいと思います。

議長(山口 一成君) 佐藤均町長。

町長(佐藤 均君) お答えをさせていただきます。

できなかった場合、6カ月後ですか、11月29日ですか、まだできなかった場合は考えておりませぬ。当然つくっていただけるものということで、イオンさんにもいろいろ折衝をさせていただいております。

先ほど、副町長がご答弁させていただきましたように、このような経済状況で、いましばらく猶予をいただきたいという返答でございませぬので、会社としては、現在、株主総会の時期でございませぬので、それらをきちっと掌握して、それが過ぎる7月初旬に、きちっと答弁をさせていただきますということでございませぬので、それを待っておる段階でございませぬので、どうぞご理解をいただきたく思います。

以上でございます。

議長(山口 一成君) 中村充男君。

5番(中村 充男君) 今現在、テレビやラジオでは経済の先行き、落ち込んだのはもう底をついたと、よく言って、底がつき過ぎて、僕は底が抜けたんじゃないかと、こういう心配をしておりますし、私はとうていそういう力はございませぬけれども、もしイオンの社長であれば、あそこに今、出店するかしないか、私はできませんね。そして、あそこにテナン

トとして入るか入らないか、もし宝くじに当たっても、あそこに私はテナントとしてよう出店しないんです。

ですから、もっとすばらしいことを考えておられるイオンさんでございますので、どのように、これが政治的なものでなければ結構でございますが、本当に地域の消費者のために便宜を図っていただくために建設されるということであれば結構でございますが、まだ信じておると言われるわけでございますが、新型インフルエンザにしましても、手を洗え、うがいをし、マスクをし、予防しているわけでございまして、かかってからタミフルがあるって。そういうものよりも、やっぱり予防でございますので、ひょっとして、あと6年ではないのです。あと6カ月なんです。あと6カ月でわかることでございますので、ひょっとしてできると私も信じておりますけれども、万が一、万に一つでも出店しなかったときにどうするか。

そしてまた、業者として私が悪だくみをした場合には、ダンプに10杯でも20杯でも砂利をぶち込んで開発にしかかると。そしたら期限内にかかったことになるじゃないかと。そしてそのままほっておくのなら、これから自分たちのところで野菜や米をつくらうという優良農地がだめになってしまって、どうしようもなくなってからではおそいと私は思っております。

ですから、もしだめな場合にはこうするああするというのを、信じておるからと、ころっとできなかつたって、どうしようでは、やっぱり済まされないことだと私は思っております。

ですから、ここは私ども議会も行政側も職員も一丸となって、どうしたら東員町にこうした問題が起きてこないか、私の調べております関係では非常に厳しい。全国のイオン出店は、ほとんど取りやめておられる。名古屋の方に聞きましても、私どもでは返事ができない、今、東京の方で一生懸命検討しておる。これがまもなく地元の選挙、国政選挙が始まる。この時期を見はからっているのではないかと、私は思わせていただくわけございまして、1人2人の選挙のために、農地をつぶしてしまうかしまわないか、どうするか。もうその田んぼを担保に、家賃が入ってくることを担保に家を建てかえる計画もなさっておられる地主さんもいらっしゃいます。私もそういうショッピングセンターの方に何十年も従事をしておりましたので、いろんな情報が入ってきます。地元だけに、非常に私は心配をいたしております。ですから、どうかひとつ考えると夜も寝れないかもしれませんが、ひょっとしたら、こうなったときにはこうするんだ、こういうふうになったらよかったな、そういうようなことぐらいは、いつも行政側の執行者として、私は常日ごろ、頭の中に描いていただく必要があるのではないかと、こういうふうに思わせていただくわけでございます。

今の現状では大変難しいのではないかとというふうに思わせていただきます。どうか町長、これは企業誘致ということで、企業立地特命監なるポストがあったのに、やめてしまわれ

た。どこにどうやってポストを考えて力を入れていっしょなのかということに疑念を抱いておりますが、どうか今後も、私ども、行政に反発するものではありません。失敗は許されないので、どうか議会とも協力し合って、どなたも泣かれることのないように、ひとつお導きをいただきたいと、かように思わせていただくわけでございます。

それで最後の3つ目でございますけども、まずは教育長、ご就任おめでとうでございます。心より歓迎をするというか、期待をいたしております。

私は、神田小学校のすぐ前に家がありまして、お話は一度もしたことがないのですが、ちょくちょくお見受けをいたしておりました。今の教育長が神田小学校の校長先生をなさっておられるときに、やりこそ降りませんが、雨が降っても風が吹いても、校門に立たれて児童を笑顔で迎えておられた姿をよく知っております。そういうお姿に感動をいたしておりました。

何せ私は、子どもたちの一番の教科書は先生だと思っております。その先生のトップであられる校長先生が、いつもにこにこ校門に立っておられまして、今、教育長になられる前に、また異動されたわけでございますが、子どもたちやご父兄の皆さんにどうやったかと聞いてみますと、だれ一人として小言を言う人がいない。非常に子どもたちも残念がっている。父兄も、惜しいな、先生がかわっていかれたので惜しいと惜しまれておりました。

お年を聞きましてびっくりしましたのが、私より若くて、まだ4～5年の校長先生のポストを投げ打って、どなたに誘われたのかわかりませんし、言われたのかわかりませんが、大変、今の岡野教育長には申しわけないんですが、私は教育長が途中でやめられるときに、ひょっとしたらあの方がなれるのかな、定年退職されるし、あの方がなというふうに思わせていただいておったわけでございますが、あにはからんや、現職でバリバリやっておられる岡野さんという方が教育長だということで、驚きをいたしたわけでございますが、まだ4～5年残っているのに、校長職を投げ捨てて教育長になられましたからには、この東員町の教育界をこういうふうにしたい、ああいうふうにしたいという希望と夢とを持ってご就任なされたと思いますが、そのお気持ちをお聞かせいただきたいと思っております。

そして、町内における教育の指針としての課題は今何であるかということをお聞かせいただきたいと思っております。

議長(山口 一成君) 岡野譲治教育長。

教育長(岡野 譲治君) 中村議員の「東員町における教育の指針と課題」についての質問にお答えをいたします。ただ、少し長くなりますので、ご了承願いたいと思っております。



教育の目的は、一人一人の人格の完成と、国家・社会の形成者としての資質の育成にあり、この両者の調和のとれた教育を実現することが求められております。私は、この教育の目的達成のために全力をあげて取り組みたいと思っております。

その中で、次の5点を大切にしながら、今後教育行政を進めてまいりたいと思っております。

第1点目は、教育格差を生みださないよう、全力をあげて取り組むことであります。昨今、学力の二極化、経済格差の拡大という文字が新聞紙上を賑わしておりますが、私たち教育に携わっている者は、そのことを評論家的な視点で分析するのではなく、子どもたちの教育に悪影響が出ないよう、教育の格差が生まれないように、具体的かつ実証的に克服する重大な責務があると認識をしております。

第2点目は、教育における不易を大切に、流行に適切に対応する力をつけるということでもあります。私はどんな時代になっても変わらないこと、変えてはいけないことは「相手を察し、思いやる心の育成」であると思っております。人間の生き方の原点そのものがそこにあると思います。この相手を思いやる心を、東員町の子どもたちすべてに育てていきたいと考えております。また、学校教育における知・徳・体のバランスのとれた育成、一人一人の望ましい発達を促す就学前教育の充実も、教育における重要な課題であると認識をしております。

一方、国際化・情報化・少子高齢化等、時代の変化は大変激しいものがあります。このような変化に的確に対応できる力の育成も必要になってまいります。子どもたちの実態や社会の流れを的確につかみ、変化に対応できる教育行政に向けて、日々努力をして、精進してまいりたいと思っております。

第3点目は、信頼される公教育・教育行政を目指すということでもあります。東員町のすべての園・校・教育行政は地域の人々に支えられて成り立っております。その根底に「信頼」というものがなければ、すべてはうまくはいきません。「信頼」こそが、今教育に求められている最大のテーマではないかと私は思っております。

それゆえ、信頼される教育行政を推進するために、公正・公平な教育行政に努めること、効果的な教育行政を推進するために教育委員会事務事業点検・評価を行い、町民の皆さんへの説明責任を果たすこと、現在の安定した東員町の子どもたちの姿をさらに伸ばすように努力すること。これらのことを中心に取り組みながら、保護者や地域の皆さんと連携を深め、強い信頼を獲得していきたいと思っております。

第4点目は、東員町のメリットを生かし、特色ある教育を推進することです。まず私は、当町におけるハード面での先進性を生かし、今後はソフト面での充実を図り、学校教育・幼児教育・社会教育の質的向上を目指した取り組みを進めていきたいと考えております。

次に、東員町内、幼保6園、小中学校8校という、大変まとまりやすい園校数の中で、東員町の教育をみんなで進めようという高い意識の現場教職員と連携しながら、保幼小中の教育充実に邁進をしていきたいと思っております。

さらに、当町では、本当にお世話になっておりますけれども、登下校時の安全ボランティアや学習支援ボランティア等、保護者・地域住民の皆さんの学校・園を支援しようとする高い意識があります。このようなすばらしい土壌の中で、豊かな地域の人材を積極的に活用し、地域との連携をさらに深めてまいりたいと思っております。

第5点目は生涯学習・生涯スポーツの振興を図ることです。近年の急激な社会構造の変化に伴う価値観や行動様式の変化を背景として、人々の学習需要は高度化・多様化しております。これらに対応した学習機会の充実が求められていると思います。私は、町民の皆さんの生涯学習と生涯スポーツの振興に努め、教育、文化、スポーツの薫り高いまちづくりに教育委員会としても邁進をしていく所存であります。

以上のような構えで、今後教育行政を進めてまいりたいと思っておりますが、他方、課題も増えてまいりました。変化の激しい社会状況、子どもたちの社会体験や自然体験不足、家庭・地域の教育力の低下等に起因する、さまざまなひずみは東員町の子どもたちに影を落としているのも事実であります。

失敗したり、困難に出会ったときに見せる心の弱さ、ストレスを抱え、心の内に閉じこもる姿、人と関わる力の育っていない姿、規範意識の欠如した姿、保護者の姿勢が子どもにマイナスの影響を与えている姿、大人が見本になっていない姿等が感じられます。

さらに、これは東員町だけではありませんけれども、課題ではありませんが、大人の社会でも内罰的反応型(自分を責めてばかりいる)や、反対に外罰的反応型(責任のすべてをほかに求める)の人たちが増加しているのではないかという気がしております。このことは子どもたちの健全育成に影響が出ないか、危惧をしているところであります。

少し長くなりましたが、私は東員町の教育長として、高い志と使命感を持ち、保護者の皆さんや子どもたちが、東員町の保幼小中に通わせてよかった、通って本当によかったと思える園校づくりに邁進をする所存であります。また、東員町に住んでよかったと思っていた

だけの生涯学習やスポーツ・文化の振興に努めてまいりたいと考えておりますので、どうぞご理解、ご協力を賜りますようお願いを申し上げます。

以上でございます。

議長(山口 一成君) 中村充男君。

5番(中村 充男君) ありがとうございます。

教育長は、今まで先生、児童、保護者の皆さん、そして先ほどおっしゃいましたご近所の方々とのコミュニケーションは、非常によくとれた方でいらっしゃると思いますので、今おっしゃられたことが非常に心の中に突き刺さって、これなら大丈夫だと、今思わせていただいたわけでございます。

私は小学校、中学校とあるわけでございますけども、小学校の幼児、児童たちが、感受性の豊かな時に心の教育をしていただくと。能力とか知力といいますか、そういうものは後でも開発できるわけございまして、幼児の時に人を思いやる心というか、人に心遣いをするというような教育を徹底しておきますと、素晴らしい人間になってくるというふうに私は思っておりますし、だれでも心はあります。ありますけれども、その心を人のために使えるかどうかということを幼児の時に教育していただくと非常に効果が上がる。人間として一番大事なことじゃないかなと、こう思わせていただきます。

先ほど教育長がおっしゃられたことに、すべて、そうだそうだというような気持ちでございます。どうか、学校の先生方にも、どんな大人になりたいかと子どもたちに聞かれたときに、先生みたいな大人になりたいと、こういう言葉が返ってくるように、先生方も非常に努力はいただいておりますけれども、職業としての域を脱して、教育者としてご指導をいただきまして、東員町の子はいい子ばかりやと、こういうふうに世間から言われるように、ひとつご指導を、生徒児童だけではなくて、学校の先生にも施していただきたい。

子どもたちには、人を心使うといいますか、心の貯金をしていただきまして、お金は使うとなくなってきましたけど、心の貯金は使えば使うほどたまってまいりますので、こういう教育を、道徳教育を通じまして、どうかひとつ素晴らしい教育界にさせていただきますように切にお願いいたします。

そして、この間から、私、各小中学校を回りまして、いろんな先生にご希望を伺おうとして、私の出身の東員第一中学校でございますが、職員室へ行こうと思ったら、私、今、目が非常に弱くて、急に暗いところに入ってひっくり返ったら、バケツがようけ置いてありました。教頭先生が出てみえたので、何でこんなところにバケツが置いてあるかと聞いたら、雨漏

りがするというのはです。体育館なんか、もっとひどく雨漏りしますよと。これも役場の人に言っても、天気がいいようになってから見にみえるのでわかってもらえませんか、こういう言葉でございました。

現場主義でございまして、今日幸い雨が降っておりますので、質問をちょびっと早く終わりますので、どうか学校へ行って現場を見ていただきたい。

そして、私はもう一つ、耐震構造の工事をした時に、何でこの雨漏りの対処ができなかったのか。今、教育長に申し上げても仕方がないことでございますけれども、現場の先生方の意見もよくお聞きいただきまして、即座に対応していただけるように、ひとつよろしくお願いをいたします。

それから、大先輩議員が一番最初におっしゃいました中学生の海外派遣でございますが、インフルエンザの問題ではなくて、以前からこういう問題を言われたことがないかなと、いろいろ探してみましたら、近藤議員、南部議員が、よく似たことをおっしゃってみえます。

南部議員の言われたことを勝手に出してまいりまして、ドイツの公用語はドイツ語です。中学生でドイツ語を話せる生徒はまずいないと思います。毎回思うのですが、言葉の障害はないのでしょうか。なぜ中学校で英語を教えながら、ドイツへ行っておるのだということのお答えに、町長は、変えるつもりはないというところで、子どもたちがドイツの自然や環境、文化について体感し、学んだことは生徒たちにとって大きな財産になると。そうだと思いますが、こういうことで事業の交流と交流を深めてまいりたいと考えております。ドイツということは変えるつもりはないと、こういうふうになんとなくあるわけでございます。

私もどうしてドイツなのかなと。ドイツに行ったことのない人間が、こんなことを言うのも何でございますけれども、世界に五代聖人がございます。日本の天照大神が1人、インドの釈迦が1人、ギリシャのソクラテスが1人、ユダヤのキリストが1人、最後に中国の孔子、あわせて世界の五大聖人と呼ばれております。ドイツには聖人がおりません。ところが、中国とかそういうところに海外派遣をしない。なぜドイツなんだろう。私は40年前に大学へ行く時に、外国語学部イギリス語学科を専攻いたしまして、入った時にドイツ語か中国語かフランス語か、第二外国語をとれと言われた時に、これからは中国の時代だから中国語をとるということで、中国語を勉強してまいりました。先般も中国へ行ってまいりまして、今月もまた、21日から中国に行きます。しかしこの中国、あんなところはだめやないかと。段ボールでつくった肉まんを食わせる。そんなもの、見たことありません。もっとドイツに15～16年派遣するなら、中国に30年以上派遣できる。

前の石垣教育長は、うちの孫をどうしてもドイツに連れて行ってやってくれ、うちの息子頼む、みんなから言われて困ったと。そして作文を書かせて、その作文で選考して、なおかつ、くじ引きでドイツへ連れていった。こういう経緯があるやに聞いております。ですからもっと皆さんが希望していけて、何千年の歴史という中国も捨てたものではないと私は思っております。どうか単純に、惰性か過去の慣習でドイツにしておこうと、どいつが決めたか知りませんが、これはもっと真剣に考えて、もっと学生に選択肢はないのか、こういうふうに思っておりますが、教育長、いかがでしょうか。

議長(山口 一成君) 岡野譲治教育長。

教育長(岡野 譲治君) 質問にお答えをいたします。

中学生の海外派遣事業についてのご質問でありますけれども、派遣先について、ドイツへの派遣は本年度で9回目になっております。これまでも、先ほども議員の方からご指摘がありましたけれども、皆さんから、派遣先を英語圏にしてはどうか、あるいは、中国など、日本とさまざまな意味で関係の深いアジア諸国がよいのではないかと、ご意見をいただいております。

私は、派遣先がどの国であったといたしましても、その国によって学ぶところは多々あると思います。ですから、国のことに対して、どうこうということはありませんけれども、これまで派遣してまいりましたドイツは、地球温暖化をはじめとする環境問題へ取り組み、歴史や文化、自然と人間の調和、過去のあやまちから学ぶ平和や命の尊さ、ホストファミリーとのふれあい等、なおかつ毎年続けることで築いてきたドイツのシェルナッハとの大切な関係等、3拍子も4拍子もそろった派遣先であると今思っております。

従いまして、現在のところ、派遣先をドイツから他の国へと変更することは考えておりません。

しかし、来年ですか、第1回の派遣から10年が経過をしようとしております。今後、第5次総合計画の策定とも関わり、「まちづくり、人づくり」という大きな視点から、本事業のあり方についても再検討する必要があるとも考えておりますので、よろしくご理解のほどをお願いしたいと思います。

以上です。

議長(山口 一成君) 中村充男君。

5番(中村 充男君) 質問するのがちょっと遅かったので、今回間に合わないのが残念でございますけれども、新しく教育長として就任されましたからには、とやかく言うわけではなくて、こういう問題、こういう問題がありますよということを提言をいたしまして、今後どのように対応されるか、また、お聞かせをいただく機会があろうかと思っておりますので、まず一つは笹尾小学校の生徒数が非常に減ってきております。神田小学校が非常にふえてきております。この問題について、どのように対応されるのかということが1つ。

それから放課後の問題ですね。この間、インフルエンザがはやりまして、保育園や小学校が休校になったり休んでおりますと親ごさんが非常に困っておられまして、共働きで2人が働いているところ、インフルエンザが来なくても、こうした放課後の問題、学童保育の問題、部活の問題、週5日制の学校になりまして、ゆとりの教育と言っておりましたが、ゆとりの教育と言いながらゆとりになってない、こんな教育体制でございまして、この辺のことを非常に懸念をしております。新しく教育長に就任されましたので、どうかこんな問題も日々考えていただいて、岡野さんの人事の交流力、そして教育実践等を交えて、未来ある東員町の子どもたちのために全力投球で頑張ってくださいをお願いいたしまして、質問を終わらせていただきます。

ありがとうございました。